

家庭教育支援の推進に関する検討委員会報告書

「つながりが創る豊かな家庭教育
～親子が元気になる家庭教育支援を目指して～」

家庭教育支援に関する社会全体の動向や課題の整理を行うとともに、家庭教育支援のあり方についての検討を行うことを目的に設置し、平成23年6月より9回にわたって検討。 座長：汐見 稔幸（白梅学園大学学長）

平成24年3月「つながりが創る豊かな家庭教育～親子が元気になる家庭教育支援を目指して～」をとりまとめた。

○ 報告書(平成24年3月)の概要

「つながりが創る豊かな家庭教育 ～親子が元気になる家庭教育支援を目指して～」

<現状と課題>

- 子育ての自信や対処能力の不足、発達段階に応じた子どものかかわり方がわからない
→ **子の誕生から自立までの切れ目のない支援**が必要
- 家庭が孤立化が進み、困難な課題を抱え込み、児童虐待など問題が深刻化
→ 課題を抱える家庭に対して、**届ける支援(アウトリーチ)と福祉等との連携が必要**
- 引きこもりなど、子どもの社会性や自立心が育ちにくい
→ **多様な世代が関わり合う社会**で、子どもの育ちを支えることが必要



現代社会は親子の育ちを支える人間関係の弱まりや子どもの社会性や自立心などの育ちをめぐる課題など、
家庭教育が困難になっている社会との認識が必要 → **地域の取組の活性化が必要**

<基本的な方向性と具体的な方策>

方向性① 親の育ちを応援する

- ・親の育ちを応援する学習プログラムの充実
- ・多様な場を活用した学習機会の提供
- ・将来親になる中高生の子育て理解学習の推進
- ・子どもから大人までの生活習慣づくり

方向性② 家庭のネットワークを広げる

- ・家庭を開き、地域とのつながりをつくる
- ・学校や家庭、地域の連携した活動の促進

方向性③ 支援のネットワークを広げる

- ・地域人材による家庭教育支援チーム型支援の普及
- ・課題を抱える家庭に対する学校と連携した支援の仕組づくり
- ・人材養成と社会全体の子育て理解の促進
- ・保健福祉等の関連分野と家庭教育支援の連携